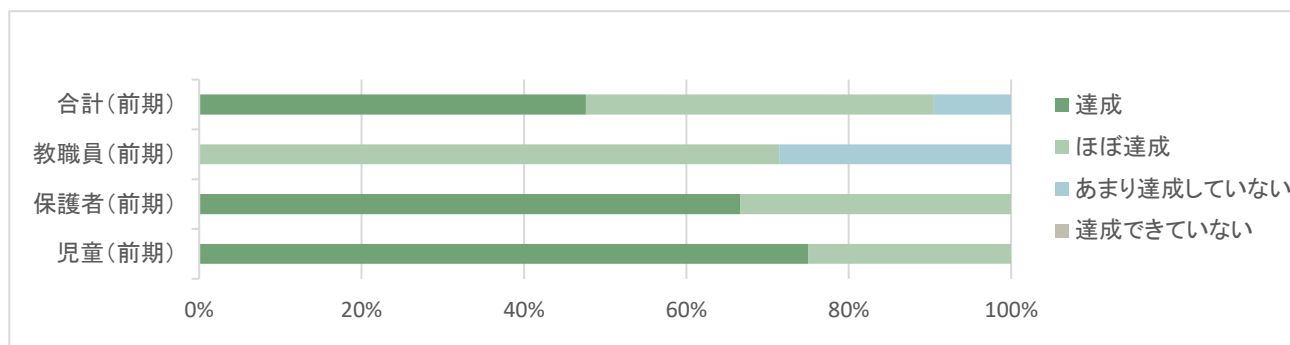


令和5年度 東士幌小学校 前期 学校評価アンケート

1 【指導方法の工夫】子どもが主語となる授業を展開する



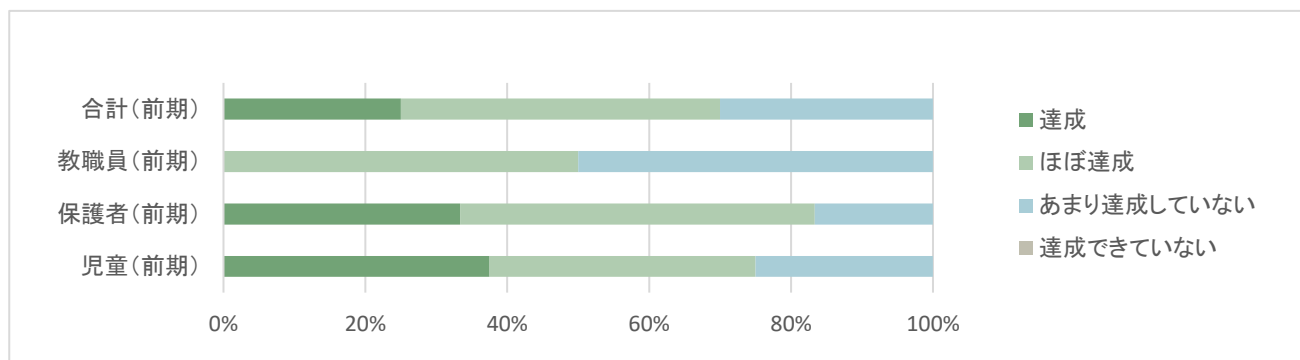
児童：授業でタブレットを使うのが楽しい。図工の時間が楽しい。先生が勉強で面白いから。

保護者：授業中に疑問を解決できる事がとても有難いです。分からない所をその場で取り除いてもらえるので毎日スッキリして帰宅します。授業を楽しんでいる様子で、先生方とのやりとりを話してくれたり、習ってきた内容を教えてくれたりします。

教職員：デジタル教科書とスマイルネクストドリルは、極小規模校においても大変有効と感じました。図工で動画の編集を行ったり、家庭科の課題を自宅で写真に撮って提出したりするなど、クラスルームやロイロノートを活用した。先生方も増え、学年別 個別の対応がよりやりやすくなったことで教材の準備がしやすくなった。

●ICTに疎く活用できなかった。

2 【学習の定着】読解力を高める

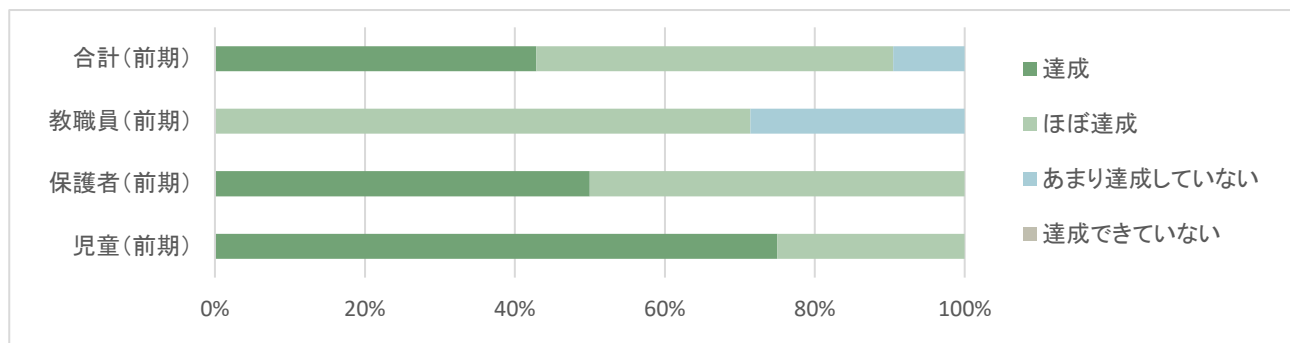


児童：少し読むのがにがてだから。漢字が苦手だから。読むときちょっと引っかかります。

保護者：教科書は読まされてる状態で読み進みませんが、自分に必要な工作の説明書やレシピ本はすらすら読んで理解して作っています。家庭での音読を聞いてそう思いました。

教職員：●文章を正確に読み取る力の定着を図ることができなかった。

3 【基本的な生活習慣】気持ちの良い挨拶・返事の習慣と社会でのルールを習得する

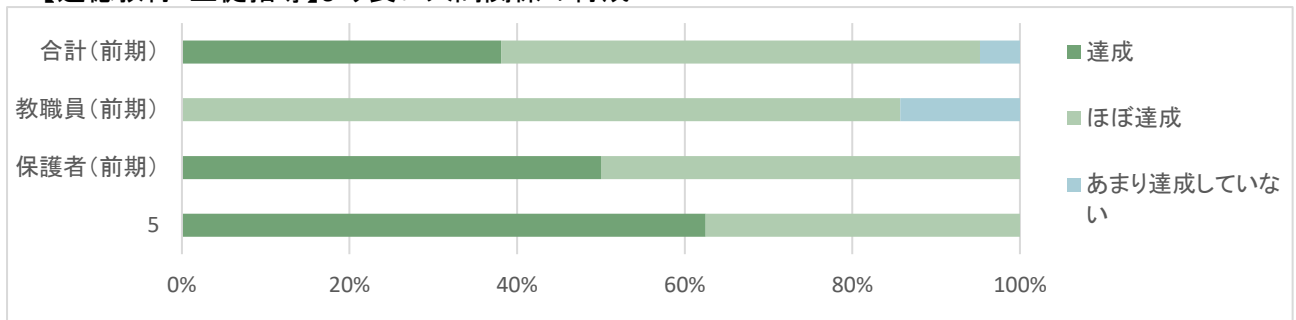


児童：しっかりと理解できています。わからないときもあるから。

保護者：家では機嫌によって返事をしない事もありますが、学校の皆や地域の方とは元気に挨拶したり話したりしています。家では茶碗の持ち方や一人で食べ始めたり食事のマナーが気になります。交通ルールは良く守れていると思います。畑で仕事をしている時、大きな声で挨拶してくれます。

教職員：記載なし

4 【道徳教育・生徒指導】より良い人間関係の育成



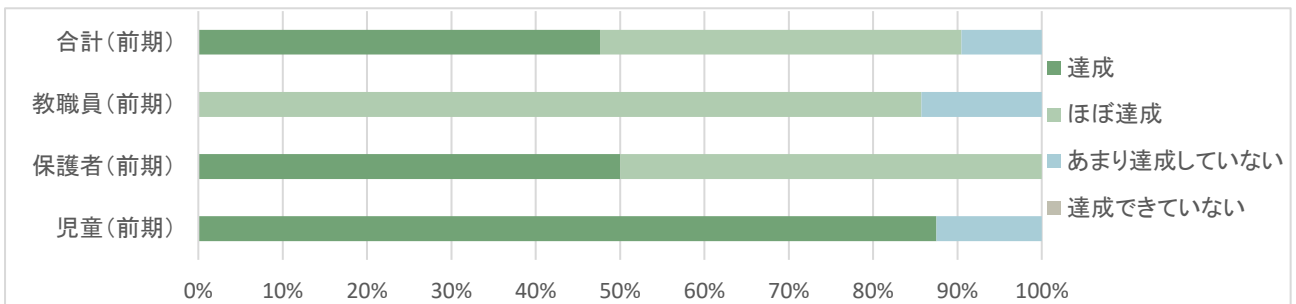
児童：仲良く遊んでいるから。みんな優しくいい人ばかり。

保護者：学校で毎日たくさん会話したり色々なやりとりを通して、信頼できる大人と信頼できる仲間に囲まれているなあと感じます。今までより一人一人と近い関係になり、行き過ぎた言動や行動等もあると思いますが、それを近くで見守ってくれる先生方がいて安心して経験していける環境に感謝しています。

教職員：道徳教育だけでなく、日頃の言動やトラブル、言葉がけなどの様子を見て、その度にどうしていったら良かったのかを、子どもたちと話し合いながら、前向きに学校生活を過ごしてきていると思う。

●児童の自己肯定感をより一層高めていく必要があるため。

5 【キャリア教育】勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の育成

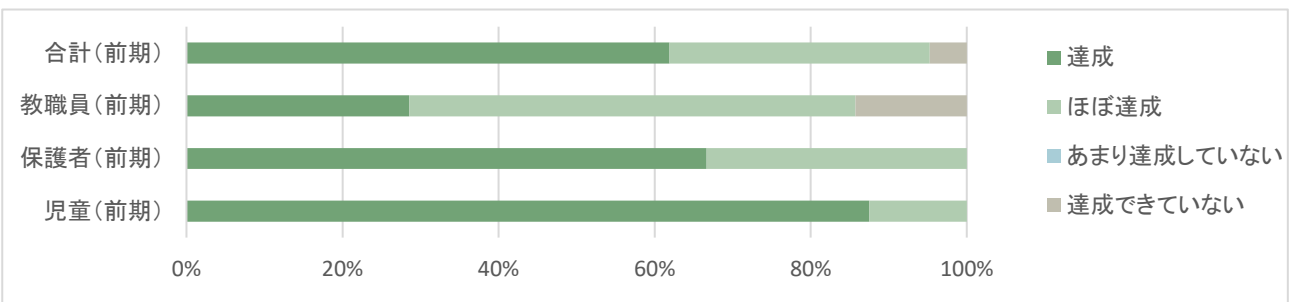


児童：放送をしかりしている。忘れがち。(グッピーの)餌をいつもあげている。

保護者：掃除当番を頑張ってやっていると聞きました。”

教職員：何事も目標をもって取り組むよう指導した。少人数だが、さまざまなことを進んで行うことができるようになってきた。

6 【体力の向上】積極的に運動に関わろうとする態度の育成



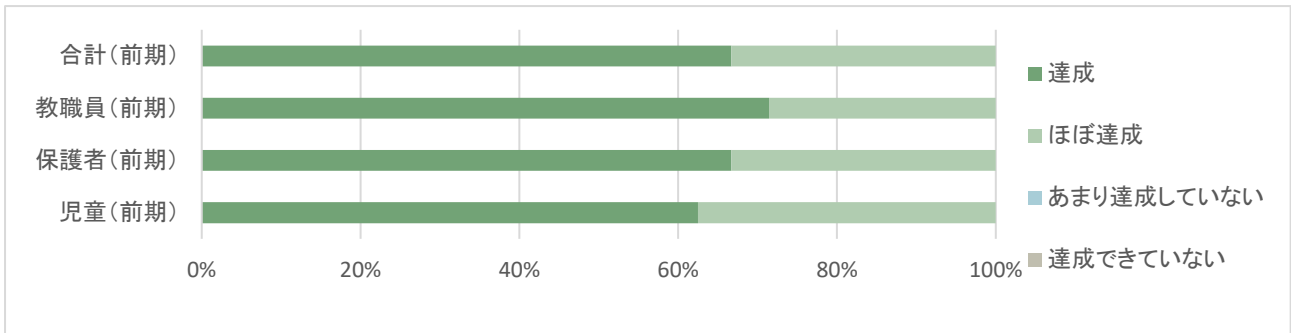
児童：いつも体を動かしています。みんなと遊んでいる。サッカーをしているから。運動をしたら体が良くなるから。サッカーをして運動しています。歩いているけど体育館で遊んでいない。

保護者：自転車通学と、皆での遊びがサッカーと、水遊び等の様々な活動を通し、体力づくりと、こんなに運動したことが無いので体の使い方や道具の使い方も学んでいると思います。

教職員：朝の体力づくりを、先生がたで協力して継続できていることは大きい。朝のトレーニングでは、職員が交代でバラエティに富んだ運動を企画・実施することで、児童も楽しく運動をすることができたと思う。コロナ禍を経て、いろいろなことがもとに戻った今年度、子どもたちの体力強化に継続して力を入れてきた。

●そのような機会に接する場面がほとんど無かった。

7 【安全指導】危機管理体制の確立と危機意識の高揚

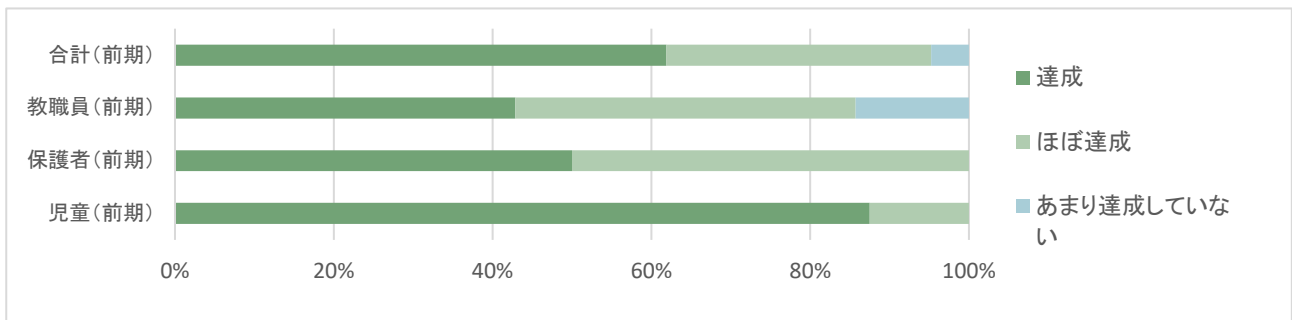


児童：じゅんぱんをまもってとうこうしているから。前の人に、ぶつからないようにしている。

保護者：体調不良時に休ませてもらったり、猛暑での午後臨時休校や天気急変や熊、その他マチコミメール情報も、子供達の安全を気遣いこまめな対応をいただいています。マチコミなどで情報が送られてきているので。

教職員：保護者への連絡も含め、危機管理への迅速な対応ができていた。熱中症対策や熊騒動など教職員が共通理解を深めながら取り組むことができた。後手に回らず先手を取れたのは日頃からの意識の高さだと思います。自転車登校ということもあり安全指導には全教職員で意識を持って取り組んできた。熊出没の緊急事態や風が強い日の登下校など、保護者と連絡を密にとって、安全安心の確保に努めることができたのではないかと。

8 【開かれた学校づくり】家庭・地域との連携、情報の発信

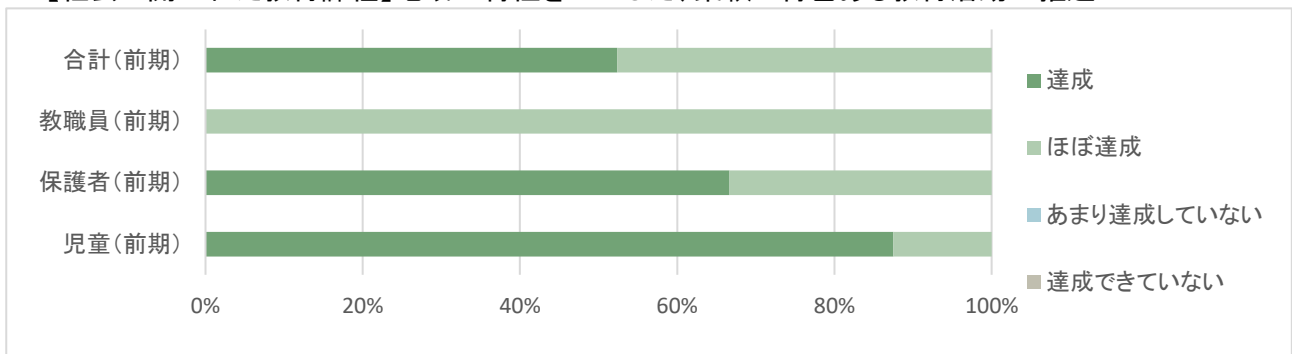


児童：帰ってすぐに宿題を終わらしているから。プリント見してる。

保護者：とても丁寧に情報をいただけています。

教職員：学級通信を定期的に発行し、学習状況の様子や児童に期待することなどを伝えることができた。

9 【社会に開かれた教育課程】地域の特性を生かした、柔軟で特色ある教育活動の推進



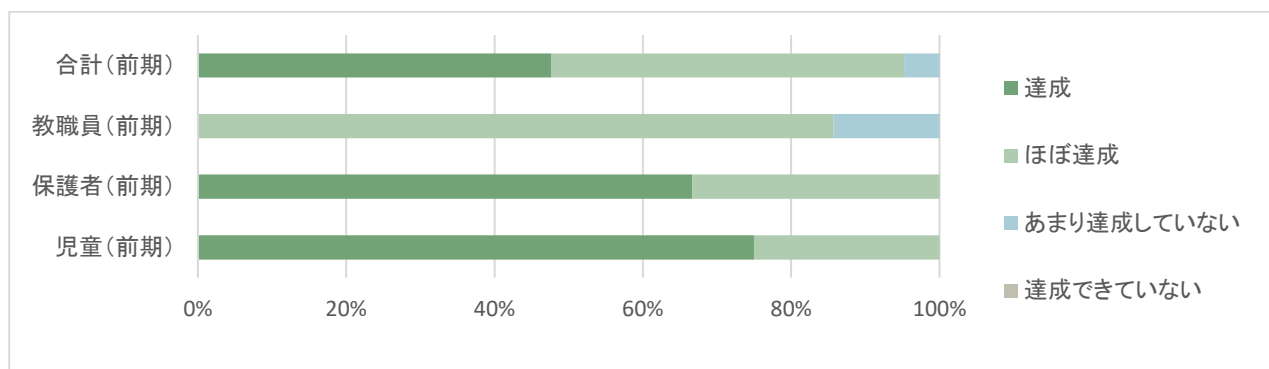
児童：みんな頑張ってくれるから。みんなとからだを動かすのは、楽しい。

保護者：メダカは実際に観察できて、名前も付けて楽しんでたしとても良いと思います。農園から持ち帰った苦手なピーマン食べました。おじいちゃん達とのふれあいも知ってる顔が増える良い機会だと思います。

教職員：地域の環境・人材活用は、環境学習をはじめ教務を中心に積極的に取り入れてもらえた。祖父母参観やPTA活動、気球登場体験など、地域保護者と連絡を取り合いながら進めて来れているのではないかと。また、環境学習や登山にチャレンジした遠足など、今までの取り組みに固執することなく、創造的な取り組みができたのではないだろうか。

●本校の郷土資料館の活用（外部講師による説明など）の推進が滞っている。

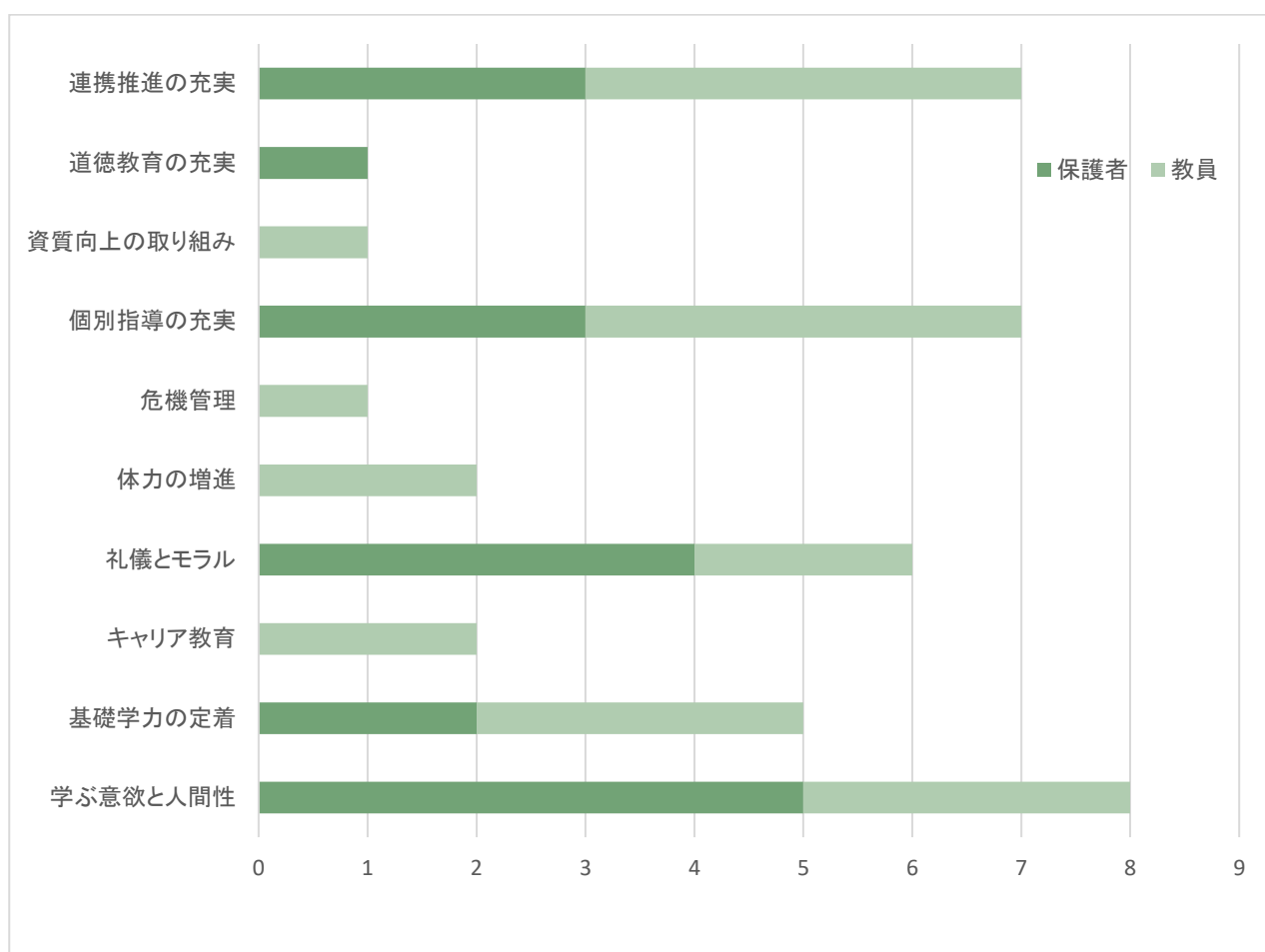
10 【カリキュラム・マネジメント】新学習指導要領を踏まえた本校の教育課程の工夫改善



児童：集中して取り組んでいます。とりくんでいます。

保護者：4月の説明会で伺いました。

後期の取組（力を入れたい教育）



☆上のグラフから、今後の東土幌小の重点課題を3つに絞ると、

「連携推進の充実」「個別指導の充実」「学ぶ意欲と人間性」

となります。